

第31回全国小学生陸上競技交流大会  
2015年8月22日  
神奈川県横浜市日産スタジアム

80メートルハードル



とも  
名生倫君  
(新田小6年)

予選から調子が良く、自己ベストの13秒04が出ました。準決勝は、スタートで遅れあせてしまいました。結果は5位で決勝には残れませんでした。でも13秒06が出たので、ちゃんとスタートできれば、記録を更新できたと思います。中学に進学したら、陸上部に入り、ハードルをやりたいと思います。

走り高跳び



りゅうき  
佐藤琉輝君  
(中津山小6年)

走り高跳びは、仲のよい先輩が県大会で3位に入賞したのを見て始めました。全国大会に出場できてうれしかったです。目標は1メートル45でしたが、自己ベスト(1メートル42)を跳ぶことができず悔しかったです。中学に進学したらバスケット部に入部して、そちらで全国に行けるよう頑張りたいです。

80メートルハードル



なつき  
工藤凪紗さん  
(石越小6年)

ハードル以外にも代表候補に選ばれていましたが、昨年出場した先輩のハードルを跳ぶ姿に憧れ、私も出場しました。スタートはうまくいきましたが、ハードルをうまく飛び越せませんでした。記録は14秒65で予選敗退。大きな舞台上で自己ベスト14秒34を更新することが目標だったので悔しいです。

走り高跳び



ひな  
佐々木陽菜さん  
(登米小6年)

自己ベストの1メートル28の更新を目指しましたが、調子が悪く前日まで1メートル20しか跳べませんでした。でも本番では「助走の最後3歩を強く」を心掛け、1メートル25まで1回で跳ぶことができました。目標の1メートル30は達成できなかったけど、力を出し切りました。中学ではバスケット部に入り、活躍したいです。

全日本中学校陸上競技選手権大会  
100メートルハードル4位

及川優花 中田中3年  
Yuka Oikawa 中田町本町畑中

FILE04

飛び越えた夏



8月18日から21日まで北海道で開催された全中陸上大会。100メートルハードルで14秒31の県記録を更新し、4位に入賞した。これまで大会でのベストタイムは14秒51。これを全国の舞台で塗り替えた。「本当にすごかった。鳥肌が立ちました」と話す陸上部顧問の鈴木先生。今大会の目標は上位入賞。自己ベストを出さない限り、上位進出は望めない。自己への挑戦に向けての目標設定だった。「目標は上位入賞だけど、自分の走りをしようと言われて気が楽になりました」と話す優花さん。

「彼女のよさの1つは集中力の高さ。陸上をするときは、練習、大会ともに別人かと思うほど、アスリートの顔になります」と鈴木先生。これに

対して優花さんは「陸上の時は、スイッチが入るんです」と笑う。優花さんが陸上を始めたのは2歳上の兄大輝さんの影響。仲がよく、大輝さんの陸上の練習についていき、見よう見まねで走っていた。小学5年の市陸上競技大会100メートルで優勝。その後中学2年まで100メートルに出場し、中1、2の時には県大会100メートルで優勝、東北大会では6位に入賞している。

「ハードルに転向したのは昨年11月。県強化練習会で、バネの強さ、足さばきの良さにコーチから転向を勧められた。ハードルの経験はなかったが「やってみたい」という気持ちもあったので」と転向を決めた。最初は怖く、思ったように飛べなかったが、練習を重ね「今は飛ぶことが楽しくて仕方ない」という。彼女の活躍の陰には家族の支援が欠かせない。自主トレには、陸上経験者の父満城さんが協力。「お父さんがいろいろ調べて、練習メニューを考えてくれます。とても感謝しています」。優花さんは照れくさそうに話す。これからの目標は10月23日から神奈川県で開催されるジュニアオリンピックでの上位入賞。同大会は大輝さんも出場した大会。種目は違うが、目標である兄の背中が見えてきた。夢を聞くと「高校でインターハイに出場することです」と控えめに話す優花さん。これまで、根気強さと努力で困難を飛び越えてきた。そしてこれからの目標も夢も、目の前のハードル同様飛び越えていくに違いない。